

第4章 業務・活動報告のまとめ

2015年度は、構内遺跡の立会調査、出土資料の整理作業・展示会・資料貸出・資料調査協力・出土資料の自然科学分析といった業務を実施した。これらに加え、本調査室で初となる国際交流協定を締結した。また、各調査員が個別に調査研究活動をおこなった。

それぞれについてまとめると、以下のとおりである。

【構内遺跡の立会調査】

立会調査は、蔵本地区で4件、南常三島地区で3件、新蔵地区で1件、合計8件を実施した。

【出土遺物の整理・公開・活用】

整理作業は、庄・蔵本遺跡（第22・24～29次調査、1998年度立会調査）と常三島遺跡（第3・5・19・20次調査）の出土資料合計11地点分について実施した。このうち、庄・蔵本遺跡第24～26・28・29次調査については整理が完了し、『庄・蔵本遺跡2』（徳島大学埋蔵文化財調査報告書第5巻）において報告した。また、『国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要』2を刊行し、本調査室の業務・活動報告ならびに調査・研究成果を掲載した。同書では、2014年度に実施した石井地区第1次調査について、「石井地区生物資源産業学部豚舎新営に伴う試掘調査」として報告した。ほかにも『徳島大学埋蔵文化財調査室ニュースレター』No.2・3を作成し、調査室の活動や大学構内遺跡の紹介をおこなった。

展示会は3件開催した。本学日亜会館1階ギャラリー新蔵で「第13回特別展 徳島大学の至宝 新蔵遺跡の出土品 徳島大学構内遺跡出土品展示会〔その2〕」、本学附属図書館本館3階資料展示室で「平成27年度徳島大学埋蔵文化財調査室ミニ展示 庄・蔵本遺跡の弥生木製品」を開催した。同展示会では展示解説をおこない、約580名の来場があった。また、本学病院西病棟1階ギャラリーbeで「庄・蔵本／新蔵遺跡に見る土の造形」を開催した。

徳島県立博物館常設展、ふじのくに地球環境史ミュージアム常設展の2件について、庄・蔵本遺跡出土遺物の貸し出しをおこなった。ほかに、奈良県立橿原考古学研究所によって、SPring-8でのX線CTスキャンを使用した炭化米の断面分析が実施され、これに際して庄・蔵遺跡出土の炭化粳塊を貸し出した。資料調査協力は12件実施し、国外では韓国の東亜大学校・全南大学校、国内は東北大学・新潟大学・立命館大学・九州大学などの諸研究機関の研究者から依頼を受けた。そして、庄・蔵本遺跡第27次調査出土の炭化種実・鱗茎類の放射性炭素年代測定、常三島遺跡第3・5次調査出土の人骨のクリーニングと分析を外部機関に依頼した。

このほかに、本調査室で初となる国際交流協定を韓国の東亜大学校考古美術史学科との間で締結した。また、新蔵遺跡第1次調査の解説パネルを徳島大学本部（事務局）の東側に設置し、実際の調査地のほど近くでその成果が紹介できるようになった。加えて、本調査室ホームページをリニューアル

し、調査・研究成果や講座・展示会の案内などの情報について、よりわかりやすく市民や研究者に発信できるようになった。

【調査室員の研究教育活動】

本年度は3名の室員によって研究教育活動を実施した。研究業績は、論文等6件、研究発表13件、外部資金5件（科研費3件、その他研究費2件）を数える。また教育では、授業6件（全学共通教育4件、非常勤1件、その他1件）を担当した。

（三阪一徳）